



**2011年 高等学校中国語韓国語教師研修
2011年 外国語担当教員セミナー**

於：独立行政法人国民生活センター
桜美林大学 PFC

— 報告書 —

2011年8月31日

主催：公益財団法人国際文化フォーラム（TjF）

共催：桜美林大学

特別共催：在日本中国大使館教育処、駐日韓国大使館 韓国文化院
駐日韓国文化院 世宗学堂

1. 事業名称

「2011 年高等学校中国語韓国語教師研修」

※7 月 30 日と 31 日の本研修初参加者のための講座は、中国語、韓国語以外の外国語を担当する教師も参加対象とした「2011 年外国語担当教員セミナー」として実施しました。

2. 事業実施にいたる背景

公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)は、世界の若い世代間の相互理解をめざして、国内外の小中高校生への外国語教育及び多様な文化の理解を促進する事業に取り組んでいます。その中で日本の若い世代が 21 世紀を生きていく上で、日本語及び外国語によるコミュニケーション能力と多文化的資質を身につけることが不可欠であると考えてきました。しかし、日本の外国語教育の現状をみると、その在り方に危機感を覚え、その改善をめざして全国の外国語教員の皆様とともに活動をしてきました。そして、高等学校で外国語教育に携わる教員の皆様が、言語の垣根を超えて外国語教育の在り方について考える場を設けることを長年願ってきました。2009 年に高校の中国語、韓国語教師を中心に多様な言語教育に関わる先生方と外国語教育の目標・内容・方法を共に考え、スキルを磨く場として本研修を実施することでその願いは現実のものとなりました。3 年目を迎える今年は、TJF が中心となって作成を進めている高校からの中国語教育と韓国語教育のためのガイドライン「学習のめやす」(以下「学習のめやす」)のキーコンセプトの共有をめざすとともに、「学習のめやす」が提案する外国語教育のキーコンセプトを授業に取り入れる手掛かりとして、現在使用している教科書の分析を行い、その教科書をいかに活用して授業を実施するか(テキストブックアダプテーション)を研修のテーマとして企画しました。

3. 事業目的

- (1) 外国語教育(中国語と韓国語教育)の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深め、学習者がコミュニケーション能力を獲得できるようにするための授業のあり方を考える。
- (2) 高等学校の中国語や韓国語の実際の授業づくりに協働して取り組む。
- (3) 中国語や韓国語を担当している教員のネットワークを強化する。

4. 事業概要

○期間および会場

期 間: 2011 年 7 月 30 日(土)～8 月 3 日(水)

会 場: 国民生活センター(7 月 30 日(土)～7 月 31 日(日))

桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス(PFC)(8 月 1 日(月)～ 8 月 3 日(水))

○実施機関

主 催: TJF

共 催: 桜美林大学

特別共催: 在日本中国大使館教育処、駐日韓国大使館 韓国文化院、駐日韓国文化院 世宗学堂

後 援: 文部科学省

協 力: 高等学校中国語教育研究会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク

○講師（敬称略、五十音順）

- 主任講師： 當作靖彦（米国 カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）
- 中国語担当講師： 植村麻紀子（神田外語大学専任講師）
胡玉華（関西学院大学常勤講師）、
千場由美子（大阪府立柴島高等学校教諭）
藤井達也（埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭）
山崎直樹（関西大学教授） *中韓その他の外国語合同講座講師も兼任
- 韓国語担当講師： 任喜久子（大阪府立花園高等学校教諭）
金孝卿（国際交流基金日本語国際センター専任講師）
中川正臣（韓国 培材大学専任講師）
阪堂千津子（東京外国語大学等非常勤講師）
山下誠（神奈川県立鶴見総合高等学校教諭）

○参加者数（ミニシンポジウムのみ参加者を含み、講師を除く）

中国語、韓国語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、日本語教育関係者 計 113 名

5. 研修の内容

2009 年度より開始された本研修は、初年度において主に、「学習のめやす」の理念と「学習のめやす」を支える外国語教育理論の共有化を図り、2010 年度は、学習内容と方法を学ぶことを中心としました。3 年目となる 2011 年度は、本研修参加経験者が増えてきたことを踏まえ、各教育現場における実践の振り返りを組み込むとともに、前半 2 日本研修初参加者のためのクラスと、既参加者対象のクラスに分けて研修を実施しました。（巻末の研修カリキュラム参照）

○前半 2 日 【7 月 30 日（土）～31 日（日）】

前半 2 日間は、国民生活センターを会場に、これまで同様、中国語と韓国語だけでなく広く外国語教育に携わる教師を対象に研修を実施しました。初参加者のクラスでは、當作靖彦氏（米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）による講義を行い、コミュニケーション能力が身につく外国語教育のあり方と、それを達成するための具体的な目標設定から学習内容と方法を学び、カリキュラムデザイン、LESSONプラン、学習者中心の活動を考える機会としました。

既参加者対象のクラスでは、「学習のめやす」がめざすものを共有したうえで、日本の高校における中国語および韓国語の授業風景を撮影したビデオと、日本語を学ぶ米国の高校生が制作したグループワークの成果物（ビデオ）を、「めやす」のキーコンセプトに基づいて分析することで、その理解を深めるとともに、自分達の授業を内省することを目的としたグループワークを行いました。

「学習のめやす」がめざすもの

教育理念： 他者の発見 自己の発見 つながりの実現

教育目標： 多様なことばと文化を学ぶことをとおして、学習者の人間的成長を促し、21 世紀のグローバル社会に生きる力を育てる。

学習目標（キーコンセプト）： 3 領域 × 3 能力 + 3 連繫

3 領域： 言語領域 / 文化領域 / グローバル社会領域

3 能力： わかる / できる / つながる

3 連繫： 学習者の関心・意欲・態度・学習スタイルとつながる / 既習の内容・経験、他教科の内容とつながる / 教室外の現実社会とつながる。

○後半3日 【8月1日(月)～3日(水)】

8月1日からは、会場を桜美林大学 PFC に移し、中国語教師と韓国語教師を対象を限定したグループワークを実施しました。中韓それぞれのグループに分かれ、ふだんの授業で使っている教科書の特徴を「学習のめやす」に基づいて分析するという活動から始めました。参加者からは「ここまで詳細な教科書分析をするのは初めてだったが自分の使っている教科書の特徴が分かってよかった」という声があがりました。続いて、分析した教科書を使って「学習のめやす」のキーコンセプトを取り入れた単元案を作成するテキストブックアダプテーションにグループで取り組みました。そして、その結果をポスター形式で発表し、参加者間で意見交換を行いました。

6. ミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」

研修のカリキュラムの一部として一般に公開する形で実施したミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」は、中・韓・英・仏・独・露・西・日の外国語教育関係者約120名が一堂に会し、機関や言語を超えて21世紀の日本の外国語教育のあるべき姿について討議する大変有意義な場となりました。

まず、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の順に、それぞれがめざす外国語教育と現場(中学、高校、大学等)における実践報告が述べられました。これを受け、「めやす」の監修者でもある當作靖彦氏から米国の日本語教育の現状を例に、「めやす」の意義と外国語教育推進のための各言語教育の連帯と唱道の必要性について提案がありました。続いて松本茂氏(立教大学教授)から、日本の外国語教育政策(英語教育政策)の現状と課題について話がありました。最後に、会場から多様な外国語教育の選択肢を保証すべきだという声がロシア語や言語政策の研究者等から挙がり、日本の外国語教育関係者のネットワークを構築する契機となりました。

7. 事業の成果

5日間の研修とミニシンポジウムを通して、「学習のめやす」がめざす新しい外国語教育に関する考え方や理論に対する理解を深めるとともに、学習者が総合的コミュニケーション能力を獲得できる授業のあり方を共有することができました。また、「学習のめやす」を活用した実際の授業実践について、教育活動にもっとも身近である教科書の分析や活用の方法をテーマにグループワークを行った結果、自分が使っている教科書で「学習のめやす」を授業に取り入れる動機を高めることができました。

さらに、今年は高校の外国語教師に限らず、大学の講師や、大学院生、民間の語学教師の参加もあり、人としての成長を促す外国語教育のあり方を共有することができたばかりでなく、高校の外国語教育から広がる外国語教師のネットワークを形成することもでき、参加者からご好評をいただきました。

8. 今後の課題

本研修初参加者の中からは、「講義内容が多すぎて消化しきれなかった」という声が挙げられました。今回は、ミニシンポジウムの実施もあり、前半2日7コマでの実施となったことも影響していると思います。また、既参加者は、前半2日の初参加者用の講義は受講できない設定にしましたが、講義の内容を自分で実践した後にもう一度同じ内容の講義を聞くことで理解が深まるという声もあることから、参加者自身に選択してもらうことも検討する必要があるように思います。他にも、参加者間の意見交換の時間をもっと多くあるとよい、事前に課題図書や宿題を与えてほしいというアンケートの記述がありました。開催地については、東京以外での開催を求める声が昨年同様よせられ、次年度の実施については東京以外での開催も検討したいと思います。

2009 年度より始まった「学習のめやす」完成版作成プロジェクトは、今年度中にその成果を冊子にとりまとめて報告する予定です。今後は「学習のめやす」を拠り所に研修を展開していきたいと考えています。そのために、研修内容を整理し、研修の全体像を明示することで、それぞれのニーズに合わせて研修に参加できるように努めたいと考えています。また、より多くの教師に研修に参加してもらうためのインセンティブもあわせて検討していきたいと思います。

以上の課題を踏まえ、来年度の研修では開催方法の検討と、講座内容の全貌を明示し、新たな目標を設定した上で研修を企画してまいりたいと存じます。

9. アンケート結果

アンケートは、2011 年高等学校中国語韓国語教師研修および外国語担当教員セミナーの参加者 113 名に配布し、57 名から回収した。

□研修・セミナーについて

○講義全般について

内容は大変よく参考になった	33
内容はよく概略は理解できたが、理解すべき内容が多く、十分消化できていない。	16
講義の内容が十分理解できなかった。	0
講義の内容は参考にならなかった。	0
無記入	8

▶ 「学習のめやすのキーコンセプト」、「授業(ビデオ)分析」、「バックワードデザインの考え方」、「ミニシンポジウム」などが今回の研修でもっとも良かった内容として挙げられた。

□「学習のめやす 2011」について

○「学習のめやす 2011」が提案する外国語教育の内容や方法についてどう思いますか。(複数回答可)

大変よいと思った。	26
授業づくりに参考にしたいと思った。	28
概略は理解できたが、具体的な取り入れ方がわからない。	7
内容が理解できなかった。	0
あまり参考にならないと思った。	1
その他	0

○ワークショップなど研修の開催地の希望

東京	20
大阪	19
その他	9
無記入	9

▶ その他と答えた方のうち 4 名が名古屋での開催を希望し、1 名が京都での開催を希望した。

□本研修に参加した理由について

○教育上の課題を解決するため。

はい	いいえ	／無記入：4
(38) (7) (5) (3) (0)		

○知合いから参加を勧められて。

はい	いいえ	／無記入：10
(14) (10) (8) (4) (11)		

○勉強が好きだから。

はい	いいえ	／無記入：9
(19) (14) (12) (1) (2)		

○外国語教育に親しみ、業界の一員としていたいから。

はい	いいえ	／無記入：9
(9) (26) (10) (2) (3)		

以上

研修のひとこま

高校の中国語、韓国語教育から始まった研修ですが、この3年間で言語や機関の枠を超え、多くの人たちと、人間的成長を促す外国語教育のあり方を共有する場となりました。

7月30日～31日 講義、グループワーク



参加者に語りかけるように講義する當作先生



研修初参加者のみなさん



中国語のグループ作業風景



韓国語のグループ作業風景



中国語のグループを進行する胡玉華先生



韓国語のグループワークを進行する中川先生

人や物、情報が国境を越えて「つながる」21世紀の社会に備え、外国語教育が果たす役割について言語・機関の枠を超えて共有することができ、外国語教育のあらたな変革の兆しを感じました。

7月31日 ミニシンポジウム・交流会



日本語教育から



フランス語教育から



スペイン語教育から



ドイツ語教育から



英語教育から



定員を超える参加者



会場からのコメントも(ロシア語教育から)

7月31日 交流会



桜美林大学入試広報課部長 尾崎幹男様
からメッセージをいただきました。



担当する言語、所属機関の枠を超えて、先生がたが一同
に会した交流の場となりました。

8月1日～3日 講義・グループワーク



當作先生の講義



ポスター見学風景



韓国語のグループ作業風景



中国語のグループ作業風景

1 時限 =90 分)	受講対象	1 時限 9:00-10:30	2 時限 10:45-12:15	昼食	3 時限 13:30-15:00	4 時限 15:15-16:45	その他
7 月 30 日(土) 会場: 国民生活センター	①初受講者	コミュニケーションとは 何か 研修室 A	新しい能力を身に つけるとは何か 研修室 A	食堂	カリキュラムの バックワードデザイン 研修室 A	カリキュラムから レッスンプランへ 研修室 A	桜美林大学 キャンパスツアー
	②受講経験者	「学習のめやす」の キーコンセプト 中会議室(合同)	授業分析① (グループワーク) 中会議室(中) 研修室B(韓)	食堂	授業分析② (グループワーク) 中会議室(中) 研修室B(韓)	授業分析③ (グループワーク) 中会議室(中) 研修室B(韓)	
7 月 31 日(日) 会場: 国民生活センター	①初受講者	学習者中心の クラス活動① 研修室 A	学習者中心の クラス活動② 研修室 A	食堂	「学習のめやす」について 13:15-14:45 研修室 A	ミニシンポジウム 「21 世紀の日本の 外国語教育を考える」 15:00-17:30 講堂	参加者 交流会 食堂
	②受講経験者	授業分析④ (グループワーク) 中会議室	授業分析⑤ (グループワーク) 中会議室	食堂	授業分析のふりかえり 13:15-14:45 中会議室		
8 月 1 日(月) 会場: 桜美林大学 PFC	①②の受講者 (中韓のみ)	テキストブックアダプテーション (オリエンテーション①) 授業設計の手順および 内容のレビューと教科書分析の概要 P201		1Fホール	教科書分析と ディスカッション① (グループワーク) P201	教科書分析と ディスカッション② (グループワーク) P201	
8 月 2 日(火) 会場: 桜美林大学 PFC	①②の受講者 (中韓のみ)	テキストブックアダプテーション (オリエンテーション②) P201	ポスター発表・ 意見交換 P506, P507	1Fホール	レッスンプラン作成① (グループワーク) P505, P508	レッスンプラン作成② (グループワーク) P505, P508	
8 月 3 日(水) 会場: 桜美林大学 PFC	①②の受講者 (中韓のみ)	レッスンプラン作成③ (グループワーク) P505, P508	レッスンプラン作成④ (グループワーク) P505, P508	1Fホール	ポスター発表・ 意見交換 P506, P507	講評・ふりかえり P201	



2011